



## インクルーシブ教育基礎論 試行実践

### 課外授業「インクルーシブ教育を外国人児童生徒への支援との関連から考える」を開催しました

開催日時：2023年12月13日(水)10時40分～12時10分

場 所：共通講義棟3階312 イノベーション・コモンズ

講 師：竹口 智之 准教授、小川 修史 准教授、岡村 章司 教授

実施方法：対面による実施

新設される「インクルーシブ教育基礎論」では、インクルーシブ教育を実践する素養を高めることを目的としています。インクルーシブ教育を他領域との関連から考えることを目的に、「外国人児童生徒への支援」を本授業では取り扱いました。

受講者数は大学院生を含めた12名でした。竹口先生が講義を行う中で、適宜質問を受け、それらの質問に応じていくといった方法で進めていきました。また、その経過で学生がグループでミニワークを行う機会も複数設けました。

一人ひとりのニーズに応じた支援の必要性、外国人と日本人の境界の曖昧さ、ユニバーサル・デザインの重要性、地域レベルでの支援体制の充実など、インクルーシブ教育を推進するにあたって重要な多くの観点を確認することができました。また、アセスメント、特に子どもの強みに着目する重要性についても確認でき、改めて文化・言語を含めた互いの違いを尊重し合う学校づくりが求められていることを学生間で共有しました。

講義後のアンケートでは、「(特別支援教育と) 共通事項がいっぱいあると思っていたので、そういう話が聞けてよかった」「これから教員としてどうしていこうか考えるきっかけになった」「新たな視点が得られた」「すべての子どもたちに焦点をあてることの重要性を再認識した」などの肯定的なコメントが見られました。また、授業の形態については「楽しくなるような空間(教室)であった」「対話型のスタイルがわかりやすかった」といった肯定的な評価を得られた。一方で、「チャットなどですぐ質問できる」「反転学習」「事前動画」など、授業改善の要望を得ることもできました。さらなる改善を図っていければと考えます。

